

ダンスと社会の関わり

浦谷真奈（兵庫県立北摂三田高等学校）

研究動機

中学校の体育の授業でダンスをした際、ほかの授業内容のときとの違いを感じた
→・ 三年間継続的に行われる授業内容ではなく、一時的なものだと感じた
技術的な面での指導が少ないと感じた
苦手意識を持つ同級生が多かった
中学校で継続的かつ円滑にダンスの授業を行うためには
ダンスの授業に苦手意識や嫌悪感を抱く生徒を減らすには

先行研究と研究テーマ

ダンス・平成20年に告示された中学校学習指導要領によって必修化
学校におけるダンス

研究手法

インタビュー、アンケートをおこなう
中学校の教員 ダンス指導者 中学校の生徒
より良い授業方法を考える
中学校の教員の方に提案

研究結果

○中学校の教員
授業の中で困っていること
→ 指導者にダンス経験がない 生徒の恥ずかしさを取り除く方法 グループによって進捗に
差ができる
ダンス指導者に聞いてみたいこと
→ 苦手な生徒に対する接し方 どのようにして生徒の恥ずかしさを取り除くのか 生徒のレ
ベルに応じた授業内容
○ダンス指導者
ダンスの授業について
→ダンスが広まり楽しさを感じる一方ダ ンスはあくまで芸術や文化でありスポーツではないとい
う認識が薄れることを懸念
ダンス必須化による影響
→ ダンス人口の増加
・ ダンスに対する熱量にギャップが生まれる

まとめ・展望

ダンスの授業における問題の原因は教員にダンス経験がないことが大きい
引き続きインタビューをおこなう